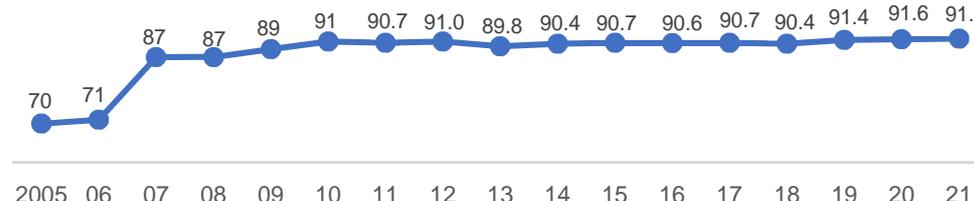
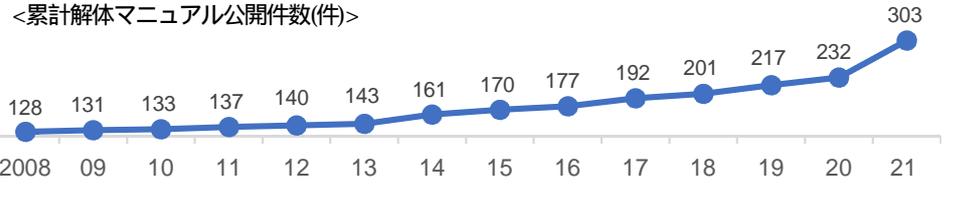
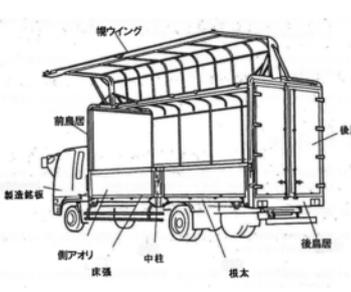
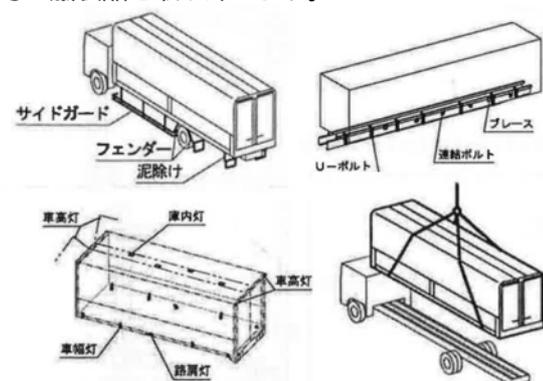


## 商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり

1. リサイクル設計の推進 : (1)車体メーカー各社にて製品展開拡大中  
(2)易解体性向上・解体マニュアル充実のため平ボデー、バン型車解体実験を実施  
設計への反映、解体マニュアル記載内容見直しを推進  
(3)環境基準適合ラベルの貼付目標80%達成済み(2021年度91.6%)
2. 重金属4物質の使用削減 : 鉛・六価クロム・水銀・カドミウム、2021年度は車工会2会員が不使用の確認取れず
3. リサイクル・適正処理の推進 : 協力事業者制度継続中。LiB情報も追加し情報充実
4. 情報提供、啓発活動の推進 : 協力事業者情報の車工会HP掲載継続。解体作業見学会、シャシー・架装物工場見学会ともコロナ禍のため2020・21年度は中止

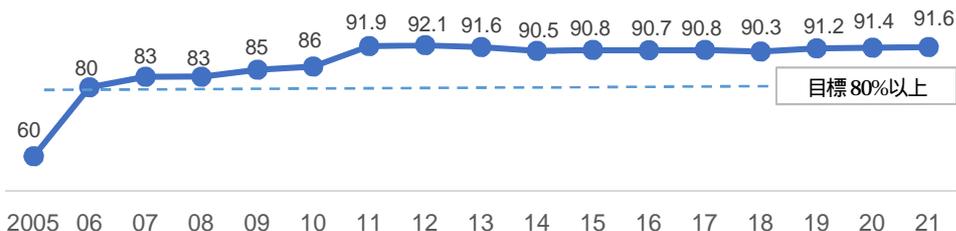
自主取組みの内容	進捗状況																																				
<p><b>1. リサイクル設計の推進</b> (1)易解体性向上および適正処理の推進 〔目標:易解体性バンの試作、製品展開〕</p>	<p>各社にて各種易解体性バンの開発、製品化を展開中 易解体性バンは2021年度車工会会員バン生産の91.7%(59,730台) 解体業者団体と連携して平ボデー、バン型車等の解体作業見学会を実施。解体時間短縮のための課題を抽出、製品に反映し架装メーカー各社にフィードバック</p> <p>&lt;車工会会員生産バンに占める易解体性バンの比率(%)&gt;</p>  <table border="1"> <caption>&lt;車工会会員生産バンに占める易解体性バンの比率(%)&gt;</caption> <tr><th>年</th><td>2005</td><td>2006</td><td>2007</td><td>2008</td><td>2009</td><td>2010</td><td>2011</td><td>2012</td><td>2013</td><td>2014</td><td>2015</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td></tr> <tr><th>比率</th><td>70</td><td>71</td><td>87</td><td>87</td><td>89</td><td>91</td><td>90.7</td><td>91.0</td><td>89.8</td><td>90.4</td><td>90.7</td><td>90.6</td><td>90.7</td><td>90.4</td><td>91.4</td><td>91.6</td><td>91.7</td></tr> </table>	年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	比率	70	71	87	87	89	91	90.7	91.0	89.8	90.4	90.7	90.6	90.7	90.4	91.4	91.6	91.7
年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021																				
比率	70	71	87	87	89	91	90.7	91.0	89.8	90.4	90.7	90.6	90.7	90.4	91.4	91.6	91.7																				
<p>(2)解体マニュアル作成 〔目標:主要3機種の大半をカバー〕</p>	<p>解体事業者等から要望のあった、主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアル対応完了 (特装車製品など新規作成) 車工会会員各社ホームページにて公開中 累計公開303件(対前年+71件) 解体事業者団体と連携、解体作業見学会を通じて得た作業実態をマニュアルへ反映</p> <p>&lt;累計解体マニュアル公開件数(件)&gt;</p>  <table border="1"> <caption>&lt;累計解体マニュアル公開件数(件)&gt;</caption> <tr><th>年</th><td>2008</td><td>2009</td><td>2010</td><td>2011</td><td>2012</td><td>2013</td><td>2014</td><td>2015</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td></tr> <tr><th>件数</th><td>128</td><td>131</td><td>133</td><td>137</td><td>140</td><td>143</td><td>161</td><td>170</td><td>177</td><td>192</td><td>201</td><td>217</td><td>232</td><td>303</td></tr> </table>	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	件数	128	131	133	137	140	143	161	170	177	192	201	217	232	303						
年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021																							
件数	128	131	133	137	140	143	161	170	177	192	201	217	232	303																							
<p>「帆ウイングボデー 解体マニュアルの例」</p> 	<p><b>解体作業手順 記載例</b> サイドガード、フェンダー、泥除け等の艀装品を取り外します。 車幅灯、車高灯・庫内灯・路肩灯等の電装品を取り外します。 Uボルト、連結ボルト・ブレース等の連結金具を取り外します。 クレーン等を使用してボデーをシャシーから取り外します。</p> 																																				

(3)環境基準適合ラベルの設定  
〔目標:車工会会員生産車の80%に貼付〕

- < 環境基準適合ラベルの要件 >  
3R 判断基準ガイドラインの作成  
解体マニュアルの作成・公開  
製造業者名の表示  
樹脂部品材料名の表示

・2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定。2005年度以降は目標80%を達成中

<環境基準適合ラベル貼付率(%)>



環境基準適合ラベルは環境省ホームページ「環境ラベル等データベース」へ登録・掲載中(2016年～)

2. 重金属4物質の使用削減

- (1)鉛  
〔目標: 使用量 2002年度 60g/台  
2006年度 30g/台に半減〕  
(2)水銀  
〔目標: 2005年1月以降使用禁止(照明装置等を除く)〕  
(3)六価クロム  
〔目標: 2008年1月以降使用禁止〕  
(4)カドミウム  
〔目標: 2007年1月以降使用禁止〕

2005年度より目標達成を継続(除:車工会2会員)

<鉛フリー化の事例> ダンプ、タンクローリ等の電着塗料への切替>

2004年末より目標達成を継続(除:車工会2会員)

<水銀フリー化の事例> 高所作業車の水平保持用のスイッチ>

2007年末より目標達成を継続(除:車工会2会員)

<六価クロムフリー化の事例> 金具類(例: 蝶番、ボルト、ナット、油圧ホースガードワイヤ>

2006年末より目標達成を継続(除:車工会2会員)

<カドミウムフリー化の事例> マーカーランプ、タンクローリ自動開閉装置の温度ヒューズ>

**重金属4物質のフォローアップ 継続。2021年度は車工会2会員の不使用確認が取れず、今後の課題**

3. リサイクル・適正処理の推進

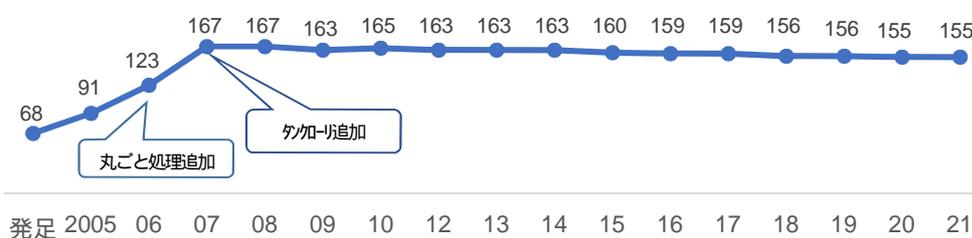
- (1)協力事業者制度の構築と拡充  
〔目標: 制度への登録拡充と  
各ブロックへの適正配置〕

車工会ホームページ掲載



協力事業者について、全国各ブロックへの適正配置を継続  
解体事業者の要望をふまえて丸ごと処理事業者ならびにタンクローリ残液の  
分析・処理・洗浄事業者も維持。2020年度はLiB情報も追加調査

<協力事業者参加事業者数>



4. 情報提供、啓発活動の推進

協力事業者情報をメンテナンスし車工会HPへ掲載、2021年4月から下記追加

- ・LiB情報を追加掲載
- ・事業者情報一覧表リストをHPからダウンロード可能とし利便性向上

解体事業者への情報提供

従来実施の解体事業者団体等と作業現場の見学会・意見交換、及び、解体事業者団体へのシャシー・架装物工場見学会とも、コロナ禍のため2020・21年度は中止。2022年度の取組み検討中